

今号のわだい

今号は12月・1月号の合併号として、1・8面をカラーで、全8ページとしています。
内容は各ページを参照下さい。

全厚労ニュース

全国労働組合連合会
厚生連

〒110-0013 東京都台東区入谷1-9-5
TEL 03-3874-3591
FAX 03-3874-3593
発行日 毎月 20日
定価 30円

広島尾道

わ ら い ん さ い

「笑in祭」を始めて

第2回 笑in祭のスタッフ一同。
頑張りました



お仕事体験する
子どもたち



院内探検ツアーも
大好評



地元小学校の合唱団も
ステージに



「どういうきっかけで「病院祭」に取り組もうとなったのですか。」
僕が5年前に広厚労の執行委員長になって全厚労の定期大会に参加した時に、各県の活動報告を聞いていて、「病院祭」という言葉を聞いて「病院祭って、なんじゃ?」と思うたんです。それで気になって、佐久総合病院やら鈴鹿厚生病院の病院祭におじゃまさせてもらって、「こんな面白い取り組みならウチでもせん」と思ってた。また当時の副院長が同じ院内のテニス部において、「こ

んなことしたいんじゃけど」と話したら、「やってみたらいい」と。その副院長が院長になり、お墨付きをもらって労使で実行委員会を作ってやる方向になったのはいいけれど、実行委員長になった僕と同じ放射線科の副院長がまったくやる気がなくて、一向に進まんようになって。1年目はそんな感じで頓挫しました。本当は病院の移転前にやりたかったんだけど、実際には新築移転後の2012年5月が第1回目の病院祭になりました。

(2面に続く)

右が岩本一宏委員長



屋台のタコ焼きづくり。
楽しくやりました(第1回)



いろんな屋台が人気です



これが「笑in祭」の
ロゴマーク



地域住民と医療従事者・ 行政が手を結んで

川西健康いどばた会議

11月9日(土)長野県佐久市駒の里ふれあいセンターで、第4回川西健康いどばた会議が開かれ、150名の地域の住民と医療に働く者が、地域の医療を考えあいました。川西地区は、佐久市西部(旧望月町・旧浅科村)と北佐久郡立科町の地域です。2010年から「川西地域医療懇談会」が開催されています。今回、実行委員会で、「医療懇談会でも住民には堅苦しい。より親しみの感じられる名前に変えよう」と提案され、「川西健康い

地域医療の 充実目指して

経緯をみると、最初の「懇談会」開催より前に、長厚労佐久支部、佐久市職労、国保浅間総合病院労組が集まり、医療の向上を目指して医療関係労組が連携して行くべきではないかと議論を重ね、近隣の川西赤十字病院労組などにも呼びかけて、緩やかな「佐久地域医療懇談会」をつくって

地域医療の中で 果たす役割

第4回川西健康いどばた会議は、地域の合唱団と病院職員の合唱団が1つになったのコーラスで幕を開けました。

前半は「新しく作られる佐久医療センター病院はどんなとき利用する病院か」と題し、佐久総合病院の再構築により14年3月開院予定の佐久医療センター病院について、

佐久総合病院診療部長の渡辺仁医師が講演しました。

後半は「地域医療の中で川西赤十字病院が果たす大きな役割」のテーマで、シンポジウムが行われました。

川西赤十字病院は、川西地区では唯一の病院ですが、経営問題から日赤本社が「廃院もありうる」とする状

況が生まれます。そこで、佐久地域医療懇談会が準備し、住民の皆さんと「川西地域医療懇談会」を開催しました。その後、地域医療アンケートも行い「懇談会」も継続してき

ました。佐久市・信濃毎日新聞・各病院なども後援に名を連ねる広がりをつくってきました。

長厚労佐久支部は健康相談コーナーで骨密度診断を行いました。

シンポでは、大内悦雄さん(川西赤十字病院長)は「将来的には在宅医療・

看取りに力を入れていきたい」と展望を語り、小宮山和幸さん(川西保健衛生施設組合長・立科町

長)は「川西地域にとつて唯一の入院機能を持つた病院。構成する自治体の各議会で規約改正を

実施し、行政として今できる事をしなければならな

いと組合として議決した」と13年度から年8千万、5年間を上限として補助する事を決めた経緯を話されました。

らTPPなど医療に限らない、いろいろな問題がでてくるが住民の皆さんと一緒に取り組んでい

てほしい」と語り、手さき久美子さん(川西赤十字病院栄養科職員)は「患者・地域住民に喜んで

もらい、ほっとしてもらえ

る病院をつくろうと職員皆で行動し、草むしりや清掃、花の種蒔き等をした事で病院内のコミュニ

ケーションが円滑になった」と職員間のつながりがより強くなった事が報告されました。

住民とともに 取り組んでほしい

シンポジストの吉川友子さん(佐久市議会議員)は「患者と病院スタッフが顔なじみで暖かい家庭の様な病院。在宅ケア、訪問診療も充実しもつと

もつと身近な病院になる事を期待したい。これか

らTPPなど医療に限らない、いろいろな問題がでてくるが住民の皆さんと一緒に取り組んでい

てほしい」と語り、手さき久美子さん(川西赤十字病院栄養科職員)は「患者・地域住民に喜んで

もらい、ほっとしてもらえ

る病院をつくろうと職員皆で行動し、草むしりや清掃、花の種蒔き等をした事で病院内のコミュニ

ケーションが円滑になった」と職員間のつながりがより強くなった事が報告されました。

会場発言では、家族が入院した事のある女性から「近くに入院できる病院があることで、毎日お見舞いに行く事ができた。遠方であつたら行く事も簡単にはできない」と、地域にとつて無くてはならない病院であると話さ

れました。

会場では、各病院(労組)による血圧・血糖値・体脂肪・骨密度を測定する健康相談コーナー、JA女性会による食の安全パネル展示が行われまし

た。

ロビー、食のコーナーでは、地元産野菜・果物の販売が行なわれ、昼食にカレーライスが提供されました。

毎日お見舞いができる

会場発言では、家族が入院した事のある女性から「近くに入院できる病院があることで、毎日お見舞いに行く事ができた。遠方であつたら行く事も簡単にはできない」と、

地域にとつて無くてはならない病院であると話さ

れました。

会場では、各病院(労組)による血圧・血糖値・体脂肪・骨密度を測定する健康相談コーナー、JA女性会による食の安全パネル展示が行われまし

た。

会場では、各病院(労組)による血圧・血糖値・体脂肪・骨密度を測定する健康相談コーナー、JA女性会による食の安全パネル展示が行われまし

た。

会場では、各病院(労組)による血圧・血糖値・体脂肪・骨密度を測定する健康相談コーナー、JA女性会による食の安全パネル展示が行われまし

た。

会場では、各病院(労組)による血圧・血糖値・体脂肪・骨密度を測定する健康相談コーナー、JA女性会による食の安全パネル展示が行われまし

た。

会場では、各病院(労組)による血圧・血糖値・体脂肪・骨密度を測定する健康相談コーナー、JA女性会による食の安全パネル展示が行われまし

た。

会場では、各病院(労組)による血圧・血糖値・体脂肪・骨密度を測定する健康相談コーナー、JA女性会による食の安全パネル展示が行われまし

た。

会場では、各病院(労組)による血圧・血糖値・体脂肪・骨密度を測定する健康相談コーナー、JA女性会による食の安全パネル展示が行われまし

た。

会場では、各病院(労組)による血圧・血糖値・体脂肪・骨密度を測定する健康相談コーナー、JA女性会による食の安全パネル展示が行われまし

た。

会場では、各病院(労組)による血圧・血糖値・体脂肪・骨密度を測定する健康相談コーナー、JA女性会による食の安全パネル展示が行われまし

「面から続く」
―実行委員長がやる気な
しとは厳しいですね。
それで「これはやばい」と、別に「幹事長」という役職を作つて、幹事長に動いてもらう形で実行委員会を回していったんです。第1回目の実行委員会は、最終的に総勢で50人くらいまでになったんですが、かなりの部分がテニス部のメンバーで、テニス部員が周りの人を巻き込んでいったというのが実態でした。

とにかく多くの人を巻き込もうと病院祭のネーミングも「公募」にして、豪華賞品をつけました。公募作品から選ぶ際にも「総選挙」と称して盛り上げました。「笑in祭」を応募した先生には、37インチの液晶テレビが贈られました。

実行委員会も2度目の時には、75人くらいに膨らんで、僕もほとんど関わらなくても動くようになったんじゃないかと、「スタッフジャンパーが予算上足りん」ていうて、追加の分は労組が負担するということで落ち着きました。

第2回目の時は、テーマを募集しようということで、色んな案が出されましたが、総選挙の結果は、流行にあやかつてということとJAの事を良く知って欲しいという思いを込めて、「じゃえJA(じゃえ)びっくりするほど楽しいまつり」ということになりました。

これから3回、4回と続いていくと、もしかしたらマンネリ化していく恐れもあるけど、きっちり守って継続していく部分と常に新しい取り組みにして新鮮な病院祭になっていくように、新しい人たちの参加も増やしていきたいと思

います。全国のみなさん、是非うちの病院祭にも来てみんな祭!!

り」ということになりました。このときの賞品は、「iPad」でした。

―地域のつながりづくり
とどう面ではどうですか。
地域への宣伝も町中にポスターを掲示してもらったり、FM番組に出させてもらったり、ローカルのケーブルテレビでも紹介してもらいました。尾道総合病院が地域に溶け込む役割も果たしてると思います。新病院が住宅地の中にあるということも含めて、患者さんだけでなく、地域の子どもたちや住民の方々に親しみやすくなってるんじゃないかと思



「近くに病院があつたから毎日お見舞いできた」と参加者の発言



「面から続く」
―実行委員長がやる気な
しとは厳しいですね。
それで「これはやばい」と、別に「幹事長」という役職を作つて、幹事長に動いてもらう形で実行委員会を回していったんです。第1回目の実行委員会は、最終的に総勢で50人くらいまでになったんですが、かなりの部分がテニス部のメンバーで、テニス部員が周りの人を巻き込んでいったというのが実態でした。

とにかく多くの人を巻き込もうと病院祭のネーミングも「公募」にして、豪華賞品をつけました。公募作品から選ぶ際にも「総選挙」と称して盛り上げました。「笑in祭」を応募した先生には、37インチの液晶テレビが贈られました。

実行委員会も2度目の時には、75人くらいに膨らんで、僕もほとんど関わらなくても動くようになったんじゃないかと、「スタッフジャンパーが予算上足りん」ていうて、追加の分は労組が負担するということで落ち着きました。

第2回目の時は、テーマを募集しようということで、色んな案が出されましたが、総選挙の結果は、流行にあやかつてということとJAの事を良く知って欲しいという思いを込めて、「じゃえJA(じゃえ)びっくりするほど楽しいまつり」ということになりました。

これから3回、4回と続いていくと、もしかしたらマンネリ化していく恐れもあるけど、きっちり守って継続していく部分と常に新しい取り組みにして新鮮な病院祭になっていくように、新しい人たちの参加も増やしていきたいと思

います。全国のみなさん、是非うちの病院祭にも来てみんな祭!!

り」ということになりました。このときの賞品は、「iPad」でした。

―地域のつながりづくり
とどう面ではどうですか。
地域への宣伝も町中にポスターを掲示してもらったり、FM番組に出させてもらったり、ローカルのケーブルテレビでも紹介してもらいました。尾道総合病院が地域に溶け込む役割も果たしてると思います。新病院が住宅地の中にあるということも含めて、患者さんだけでなく、地域の子どもたちや住民の方々に親しみやすくなってるんじゃないかと思

働きやすい職場を自分でつくろう！

土浦病院看護師わくわく対話の会を開催

軽食を食べながら つながり広げる

土浦協同病院の健康管理センターでは「風通しの良い職場にしたい」「つながりのある、元気な職員でありたい」と2年前から健康管理センターの職員を対象に運動教室や仲間作りを目的とした教室を開催していましたが、スタッフの熱意や思いはあるものの、「職員が集まらない」「予算が無い」「上司の理解が得られない」など障害がありました。

そこで今年度中執となった役員から、労働組合なら「予算がありそう」「働き方・労働条件を共に考え対話ができる」「職種の枠を超えたつながりができそう」と相談がありました。また、4月の職場集会で「どうせ働くなら働きやすい職場を自分でつくろうーをコンセプトに話したい」「愚痴を言ったら誰かがどうにかしてくれる、という考えを払拭できる様な仕組みにしたい」と熱意ある提案もあり、支部四役も「どんなやりましょう」「こういう



白熱した議論をする男性看護師グループ

この様な会をもっと増やしてほしい

6月21日に39人が集まった「第1回土浦協同病院看護師わくわく対話の会」で

のがやりたかったんですよね」と快諾。トントンと話が進みました。

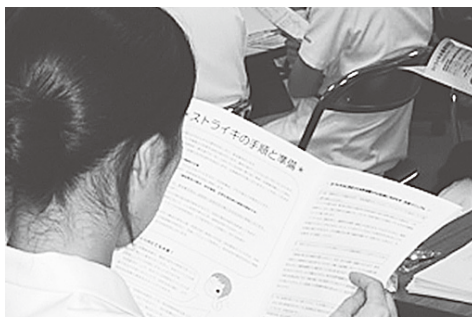
準備に当たって「食べ物で釣る！軽食を頂きながら、をキヤッチコピーに」「支部集会で使っている薄暗い食堂ではなく、明るい会議室で」「人集めは各部署の支部委員に軽食の準備もあるの：と電話で確認」など開催に向け工夫を凝らし進めていきました。「軽食をいただきながら：短時間でも顔を合わせて職場のアレ・コレを語りましょう」と書いたチラシを配りました。

は複数のグループに分かれて職場のアレ・コレを語り合いました。「新病院になったらボーナスが出なくなるのでは」「勤務がきつくなりそうだからと新しい就職先を探している看護師が何人もいる」「パワハラがあるの、どうにかしてほしい」「他の病棟の現状を知りたい」など様々な意見や要望が出されていました。

参加者から頂いたアンケートでは「有意義でしたか」「次回も参加したいですか」「今回の設問に全員が「はい」を選ぶほどの好評を得ました。「楽しかった。この様な会をもっと増やしてほしい」、「まだ組合の事が良く分からないので学びたい」「組合費の使途の話からストライキの意義を知ったので取り組んでいきたい」等、前向きな感想がたくさん出されていました。

第2回では新しい 勤務体制を想定し討論

さっそく8月30日に「ドーナツをいただきながら：正循環の交替勤務の学習、団交・ストに関する疑問、職場のアレ・コレについて語り合しましょう」と第2回を開催。グループ討議では病院で検討がはじまっている新しい交代制勤務の体



ストライキの基礎知識の資料を手に学習

制を想定して討論し、ロング日勤（8：30～20：30）・ロング夜勤（20：00～9：00）に「中堅が心配」「家庭持ち（子どものいる人）の負担が増えて離職してしまふのでは？」「生活リズム20時から仕事でいつ寝るの？」などの不安の声が出されました。

学習会として「ストライキの基礎知識」を茨厚労専従の安本さんを講師に、ストライキの種類や手順と準備などを学びました。

さらに第3回を12月6日に開催し、「給与明細のみかた」の学習で、賃金表を見ながら自分の基本給を改めて確認したほか、労働組合の役割や、賃金は労働の対価ではなく労働力の対価である事なども学び合いました。今回は、勤続年数によってグループ分けをして話し合い、終了後は、夜勤で参加できなかった組合員に一言メッセージを添えてドーナツと飲み物を差し入れし、大変喜ばれました。

職場ごとに違う 悩みを聞きとる訪問

秋厚労では2012年の大会方針で「職場スタッフとの懇談をベースに運動する」ことを確認し、取り組みを進めてきました。全正職員の実数が経営者の定めた要員計画よりも151人少ない空前の人手不足という現状を打開するためには、今働いている人が「働き続けたい」と思える職場になる事、労働条件の改善が必要だと考え、どうすればいいのかの提案として要求を提出しています。

「まとめ」で仲間の声 を共通認識に

一口に職場訪問といっても「職場」は秋田県厚生連全体で約200カ所もあります。2ヶ月に1職種を目安に4年がかりで全職種を訪問する計画に沿って、支部は職場と相談のうえ「開催の候補日」を本部に打診する形を取りました。開催も強制ではなく職場の自主性を大切に行うため開始時刻も午前9時、昼休み、仕事が終わった午後5時過ぎなど様々です。懇談を行ううかも自由なので、「やらない」ところもあれば「2回目」を開催した職場もあります。場所も「事務所」「休憩室」「会議室」などで、支部役員が懇談の場に入るのも自由となっています。

つらいからこそ 受け入れる姿勢で

職場からの声をまとめ、それを基にして中央執行委員会で議論を行ない、方針や要求（案）を作成します。それを支部で検討し、中央委員会を確認して「要求」として経営側に提出していきます。中には「どのような方針・要求にすればいいのかわからない」声もたくさんあり、大きな悩みとなっています。

「組合の取り組みが遅いのではないか」「経営者に職場の意見をキチンと伝えているのか」といった労働組合に対する声も必ず伺います。声を聞く事は楽しい事ばかりではありません。つらい事もたくさんありますが一つひとつの声を集めることで、大きな力になる事を目の当たりにしています。つらいからと耳を塞ぐ



自主的に2回目を開催した外来看護の皆さん

「休憩室」「会議室」などで、支部役員が懇談の場に入るのも自由となっています。方針に先駆けて12年6月に薬剤師から職場懇談会を始めました（表）。放射線ではいちどきに仕事が集出し、他の職場の人がたまに見に来て「ヒマそうだ」と思われるなど、各職種で特有の問題が出てい

働き続けたいと思える職場になるために

全職場訪問プロジェクト。秋厚労の職場懇談会



休憩室で車座になつての懇談会

秋厚労による職場訪問の日程					
	2月頃	4月頃	6月頃	10月頃	12月頃
2012年			薬局	放射線	外来看護師
2013年	検査	手術	事務	リハビリ	病棟
2014年	中監・運転	病棟	在宅	病棟	透析
2015年	病棟	栄養科	病棟	病棟	病棟

日程は組合員のみなさんの要望を考慮して随時見直しています

復興へ、最後まで諦めない!

震災1000日目の浪江町



寄贈したちひろカレンダーと一緒に記念撮影。
心がなごむと多くの人に好評です。



浪江町の将来について
熱く語る馬場有町長

東日本大震災から1000日目にあたる12月4日、日本原水協の行動に参加させていただき、福島県浪江町の馬場有町長との懇談と、いまだ仮設住宅に住む避難住民の方々へ、「いわさきちひろカレンダー」を届けに行き、お話を伺ってきました。

町民に寄り添う
浪江町の取り組み

二本松におかれている浪江町仮庁舎に馬場有町長を訪ねました。

もとの浪江町民は約2万1千人(7700世帯)ですが、1万4千人が県内30カ所の仮設住宅や借り上げ住宅などで生活し、県外には北海道から沖縄まで6600人が避難しています。町は福島市など4市1町に出張所と他県にも復興支援員を置き、町民の生活と自

町独自の健康管理

町では独自に全町民の健康管理手帳を発行しています。全町民が血液検査・甲状腺調査をし、一人ひとりの住民が自ら健康管理しています。また18歳未満の子どもたち(3800人)のうち、希望者(約1千人)については弘前大学放医研と連携し、染色体検査も実施しています。手帳を持つことで、町民の中には差別される事につながるという意見もありましたが、差別よりも「命」を大切にしよう、年に1回(県が2年に一度、後の1回は町独自の検査をしています)の検査をしています。

どこへ行っても
浪江町民だ

馬場町長は町民を支援する様々な取り組みを話して下さいましたが、帰還への町民全ての考えが一致しないなかで、「町に戻る人」「町

に戻りたいが戻れない人」「町に戻らない人」の3つの視点を大事に、「どこに住んでいても浪江町民」という方針で取り組んでいると話されました。「被災地から基本的な人権を問うていきたい」という熱い気持ちが語られました。

町長室には震災からの経過日数を記入したカレンダーが飾られていました。

『生業を返せ、地域を返せ!』

福島原発訴訟の目指すもの

11月30日に行われた日本機関紙協会の総会で「生業を返せ、地域を返せ!」福島原発訴訟弁護団事務局長の馬奈木厳太郎(いずたろう)弁護士が講演が行われました。講演を紹介し、福島集団訴訟への協力を呼びかけます。



馬奈木厳太郎さん

訴訟に関わるきっかけ

私は週の半分を福島に通っています。福岡生まれで福島に縁もなく東京にいる自分がなぜこの裁判をやっているのか。福島県の弁護士は200万人の人口に対して百数十人、全国でも少ない県です。しかし福島原発事故が起きて国や東電に

続けている「元気だった妻や弟が避難生活に入って相次いで亡くなった。自分もいつまで生きていられるか……」などの厳しい話の後でも仮設住宅の仲間との語らいてお互い支え合っており、それが印象的でした。

仮設住宅にも上がらせてもらいましたが、まだ本格的な冬に入っていないけれども、ものすごく足は冷たく、「絨毯を何重にもひいているが寒さが堪える」「音漏れを気にして気を遣ってしまう」などと厳しい現実を垣間見ました。

対する訴訟が確実に増えると思われる中で福島県の弁護士だけでは回らない、幸いに東京は福島にも近いということもありました。

目的は全国的課題

集団訴訟の目的は3点。①は現状回復。ただし11年3月10日に戻せ、という事ではありません。②は被害の全体救済。被害を被っている人全ての救済を目指すということ。通常の裁判は原告だけを対象としますが、原発事故は誰かを選別するということが出来ません。

そのためには1万人規模の原告団を目標にしています。理屈よりも数、裁判官が「この裁判、原告に勝たせないといけない」と思わせる程に数のある正義が必要だということです。③は「脱原発」です。原告らは「自分たちのような被害者は私たちが最後にして欲しい」と思っています。

これまでの「公害事件」人の命よりも経済社会・もうけが大事」と構造的には同じ問題です。「3月10日に戻せ」ではないと言ったのは、むしろ「放射能も原発もない地域を作ろう!」という意味で、お金などによる地域支配からの脱却、地域の主人公は私たち地域住民という社会を作っていくという大きな目標を持っています。ですので福島県民の裁判ですが、全国的な課題を背負っていると思っています。

全国から裁判に参加を

現在この集団訴訟の原告は約2千名で目標は1万名です。原発事故をめぐる裁判としては様々ありますが、全体では約4千人の原告がいます。我々の裁判は福島在住者が多く、他の裁判は県外避難者が多いようです。なかなかメディアが取り上げないので全国規模では知られていません。避難者は全国に散らばっている、こういう労働組合や市民団体が知らせてくれると助か

裁判は序盤戦の1回表

2カ月に1回の裁判が開かれていきます。原告団が要求した「津波の想定データ」を、裁判所は11月末までに提出せ、と東電に命令しましたが、東電は「裁判審理の対象にならない」と今までと同じ理由で拒否してきました。裁判所が「必要だから出せ」と命じたものです。事故に関わる情報は一体誰のものなのか。私たちは「大義ある裁判」をたたかっています。4月5、6日は福島大学で大交流会を計画しています。皆さん方様々な支援をお願いします。

原告団・弁護団HP: <http://www.nariwaisoshou.jp/>
原告団Facebook <https://www.facebook.com/nariwaikaese>

2014新春
インタビュー

いま、伝えなければ!!

IWJ (インディペンデント・ウェブジャーナル)

代表 岩上安身さん

「特定秘密保護法」をめぐるのは、一部ジャーナリズムの本領発揮した報道も見られたものの依然マスメディアの「体制化」は進んでいます。「市民のためのネットメディア」を目指すIWJの岩上安身さんにお話をお聞きしました。

―岩上さんはいろんなテーマで取材を行っておられます。脱原発やTPP、特定秘密保護法、共謀罪の策動など、国民にとって大変な事態が進んでいて、国民に伝わっていない事実もたくさんあるのではないと思いますが。

原発、TPP、秘密保護法などは、一見バラバラに見えるのですが、実はこれらはつながっています。そういう考えのもと、原発もTPPの問題も3・11以前から追い続けています。根っこはすべてつながっている。一つには米国のグローバリズムによる支配力が格段に強まっていて、そこへの



いわかみやすみ *ジャーナリスト

1959年生まれ、東京都出身。早稲田大学卒業後、編集者、週刊誌記者を経て、87年フリーに。89～94年の6年間、旧ソ連・東欧圏を取材し、96年『あらかじめ裏切られた革命』（講談社）を出版、第18回講談社ノンフィクション賞を受賞。取材は政治経済から医療、文化・スポーツまで多岐にわたり、90年代後半から少子高齢化問題について長期的な取材・執筆・発言を続け、近年は日本の政治中枢への取材を精力的に行う。(twitter) @iwakamiyasumi

*

―今のマスコミについて思うことと、労働組合に対して期待することはありますか。

私も商業マスコミの中にいた一人として、裏側の裏側まで知っている人間として、マスコミに期待することはほとんどありません。皆さんの思っているような世界ではない。部分的には良い顔をすることもありま

す。しかしそれは、手遅れになってから秘密保護法反対と言ってみたり、消費税は上げるべきだと横並びで言っておきながら、ほとんどの新聞が加盟している日本新聞協会が新聞の軽減税率を求めてみたりなど、非常に巧妙です。官僚・財界・政治家などの支配層と一体となった官報となり果てており、多くの場合、そうした残念なメディアが多い。なぜか。それは広告が収入の7割を占めるからです。企業から「広告を出さない」と言われたら終わり。その企業というのは得てして大企業です。原発関連では電気事業連合会に、消費税増税では輸出大企業におもねらなければならぬ。消費税によって還付金を得る輸出大企業は、消費税の税率が上がれば都合が非常によろしいので、新聞もそうした政策におもねるものにならざるを得ない。

しかしトータルで見たら、消費税増税は日本の経済、我々の生活をボロボロにし、税収は上がりません。しかしそんな事は彼らの知ったことではないんです。重要なのは個々自分たちの利益の積み重ね。その結果、典型的な「合成の誤謬（ゴビゆう）」の状態（ミクロの経済単位では自分にとって合理的な行動をとった結果、それを合成するとマクロ全体では落ち込んでいく）になってしまっている。



13年12月6日、1.5万人が集まった「秘密保護法」反対集会

労働組合もまた、戦後数十年間、主として冷戦期に存在できた、ケインズ主義

語る時、今その労働組合の問題を

や福祉国家など、社会民主主義的な諸政策というものによって力を得て、社会的な役割を果たしていた。しかし70年台末から英、米、そして日本、いわゆるサッチャー、レーガン、中曽根体制からスタートした非常に新自由主義的な改革のために、まず最初に標的にされたのは労組であり、その結果弱体化され、骨抜きにされてしまった。また社会主義への希望という理想を掲げていた人達にとっては、冷戦の終焉、ソ連の崩壊というのは大打撃で、以後、新たに目標を見いだせず、あるいは多くの人達にアピルする理想を提示できず、ずるずると弱体化の道を歩んでしまったのではないかと思います。

ただこの状態が良いとは思っていない。このままだと福祉国家というものが本

組合に入れない人達が問題となっていて。つまり正規でなく非正規の人達。いかに非正規の人達をすくいあげるかということをしな

り主権者である国民の主権が危うくなるということだと思います。

ボーダレス化していくということは、ナショナルリズムに反対するような、どちらかというと左翼的な傾向を持つている人達は賛成する傾向があり、都市中間層のやや左がかったマインドを持った人達はボーダレス・エコノミーというのを支持する傾向があります。でもふつと気が付くとそれは異なった。巨大な新自由主義的なグローバリズム、大資本の専制のもとに、隷従させられていたに過ぎない。しよせん都市の中間層も全部没落する。この都市の中間層の豊かさというのは、福祉国家の理念があつてできたものです。もう一度福祉国家、国民国家の理念を再構築することが重要ではないでしょうか。労働組合の問題を

IWJへのアクセス。
会員募集のお知らせ

IWJは、2010年12月に岩上安身さんが立ち上げたインターネット報道メディア。活動は市民の維持会費や寄付・カンパによって賄われています。

URL: <http://iwj.co.jp/>

主な活動

様々な運動や記者会見などの生中継
著名人や専門家へのインタビュー
動画アーカイブと記事の提供など
●一般会員 月1000円 (年払い1万円)
●サポート会員3000円 (年払い3万円)
※興味がある方・詳細はHPへアクセスを

働きづめになる職場への取り組み求め

13秋・厚労省交渉

11月28日、全厚労は13年秋・厚生労働省交渉を行ない、全国から22名が参加しました。今回は、地域医療提供体制の充実、医療労働者の労働条件改善に要求項目を絞って交渉しました。



山間地の状況を訴える富永中執

【要請内容】

1. へき地医療を担う公的病院（厚生連の経営安定化策
2. 中山間へき地における医師確保対策
3. 5局長通知をふまえた看護師の労働条件改善と法規制強化
4. 療養病床の維持・充実

県の支援機構 まかせにするな

第1の項目では、医師確保対策も含めて県毎の「へき地医療支援機構」による取り組みが中心で、へき地拠点病院にも機構を通じて必要な助成を行っているとの回答。

交渉団からは地方ほど人材確保が難しく人件費が高

む傾向にあるし、現行の助成では持ち出しになっている。県では複数の無医村を含む広域を担っているために自治体自身も対応しきれない実態があるとして、具体的な対策を行なうしてほしいと訴えました。

担当官からは、「無医村地域に新たな診療所等を立てる時の設備や機器などハード面」と「へき地診療所の運営補助などのソフト面」の財政面での対応を行っている。厚労省として個々の病院の具体的な問題については全部把握している訳ではなく、より身近な県での対応が望ましいと答えました。

調査以上に 医師足りない

第2の項目では、医療資源の限界から全ての地域で専門的な医療を提供するには限りがあるとして、ドクターヘリなどアクセス面で

「5局長通知」の 周知徹底を要請

第3の項目では、看護基本料の算定で認めているのは現行の医療安全・院内感染・じょく瘡対策のみで、あくまでも看護師が病棟で勤務している実質配置時間を要件としてその他の委員会・研修や年休を要件にすることは困難であると回答しました。

また「5局長通知」については、県の労働局として企画委員会を開き、労働担当者向けに労働基準法など知識の向上を目的としたワークショップなどを行ったり、情報提供だけでなく取り組んでいると回答しまし

「5局長通知」の 周知徹底を要請

た。交渉団から山口では「通知」が出たことで、日勤深夜を「国が言っているのだから」と止めることができた経緯が話され、各県に再通知の形で依頼をすること、広まっていくなかで周知徹底を促すことを要請しました。

また厚労省から7対1病棟が多すぎると指摘されたことに對して、交渉団は現場は7対1でも少なすぎる、慢性期でも認知症やせん妄など手のかかる患者も多く、7対1もベッドの回転が速くて回らない。7対1を最低基準にさらに手厚い看護を目指すべきだ、と訴えました。

地域の実態に 合わせ対策を

第4の項目では、介護療養病床の削減は平成23年までに転換を進めるとしたが、転換が進まず6年延長。医療療養病床については当初削減目標を持って転換を行なったが、数量的に当てはめはせず必要に合わせて行なっているなど回答しました。

地域は老々介護や核家族化で在宅では対応できず、施設もなく療養病床削減は非現実的。高齢化社会を支えるためにも先進国らしい社会保

障を目指して政策を作してほしいと要望し交渉を終えました。

夜勤の過酷さ強く訴えて



三厚労
山田有子さん

私は、三重県で看護師として病棟勤務をしています。労働組合の役員となり2年

目で、厚生労働省交渉に初めて参加する事となり前日から緊張と不安の気持ちが渦巻いていました。

交渉では、へき地医療を支える医師・看護師の不足

という状況は変わらず離職していく人は、後を絶ちません。

問題、平成26年度から始まる消費税率の引き上げに伴う医療費の改定問題など様々な問題で、これからも医療を取り巻く現場は依然厳しいものであることを痛感させられました。

勇気をもって私は、5局長通知を踏まえて発言いたしました。5局長通知とは、厚生労働省が定めた看護師などの「雇用の質」の向上のための取り組みですが、今もって看護師不足である

具体的な返答引き出す要請を

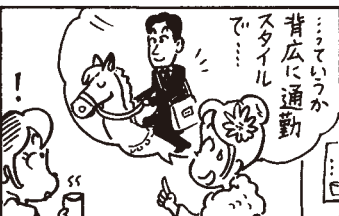


岐厚労
田宮久史さん

私は厚生労働省交渉に初めて参加し、療養病床の維持について岐阜県の例を挙げて発言しました。高山市にある高山厚生病院の存続のために地域住民が立ち上がり存続を求めているという

こと、また約100名の入院患者と150名程の外來患者が医療難民となってしまうかもしれないということ、さらにはそこに勤務している病院スタッフの生活も奪われてしまったため、ぜひ国がその方たちを守って頂きたいということを強く訴えました。

私は厚生労働省内に初めて入ったのですが、入出口に警備員が立ち、かつカードで認識しないとゲートを通れないというセキュリティが厳しい中、いったいどのような雰囲気で行われるのかと少々緊張して向かいました。しかし対応して



地方都市でも医師不足と話す大和中執(左)

地域は老々介護や核家族化で在宅では対応できず、施設もなく療養病床削減は非現実的。高齢化社会を支えるためにも先進国らしい社会保

障を目指して政策を作してほしいと要望し交渉を終えました。

私は厚生労働省内に初めて入ったのですが、入出口に警備員が立ち、かつカードで認識しないとゲートを通れないというセキュリティが厳しい中、いったいどのような雰囲気で行われるのかと少々緊張して向かいました。しかし対応して

行きたいと思っています。

帰って来た 各県この人

各県・現場で運動に、趣味に、仕事に頑張る人々を紹介するコーナーです。
第81回は新潟と静岡にお願いしました。



新潟 白井 康博さん

10月の新厚労定期大会で、新しく執行委員長に選出されました白井です。新厚労は結成されてから60年以上の歴史を持つ労働組合で、その責任の重さを感じながら任に当たっています。先輩たちがこれまで勝ち取ってきた権利を守り、要求の前進に繋げていきたいと思います。執行委員長として組合員から信頼を得られるよう運動をしていきたいと思っています。また先輩方や組合員からの支援を頂きながら頑張りたいと思います。

静厚労から遠州病院のイケメン看護師、戸祭裕生（とまつり ひろき）さんを紹介します。今年6年目で前期組合教育宣伝執行委員の肩書きを持ち、整形・耳鼻科病棟に勤務しています。

釣りが大好きな彼は、病院スタッフを引き連れ「釣り部」を結成し、週末になればホームグラウンドの浜名湖に出かけます。なんと・・・今年の夏には二級船舶免許を取得!! 遠州の松方弘樹ばりに大物を狙ってがんばっています。釣った魚は行きつけのお店で捌いてもらいます。

仕事も趣味も戸祭スマイルでがんばります。ぜひ、見かけたら声をかけてください。



静岡 戸祭 裕生さん

読者の声

滋賀医科大学の田村先生の記事を読みました。以前、講演も拝聴させていただき自らが満たされていないといけないということ強く思います。まず、自分の心の健康が一番ですね。（岐阜）

私も幹部・看護師集会の講演を実際に聞いてみたかったです。コーヒーどうですか？と勧められたとき「ああ、ありがとう。嬉しいです」といえる余裕を持ちたいです。コーヒーといえば福島県大沼郡昭和村にある「ファーマーズ

カフェ大芦屋」のコーヒーはともまろやかで美味しいです。たぶん水が良いのでは。お勧めです。（福島）

「ストレスケアと職場のコミュニケーションスキル」はともタメになりました。ケアを提供する人が自分のケアを大切に。そうですね！心のエネルギーを満たさないと良い仕事はできませんね。心がけていきます。（秋田）

ストレスケアについて「ありがとう」を明日から意識的に使ってみようと思います。自分もケアしないと周りもケアできないですね。（長野）

ちよつど医労連共済を検討中だったので共済特別キャンペーンのを知り、ラッキーでした。パンフレットは頂いていたのですが読むの詳しい説明があるので全然違います。さっそく担当の方の所へ行ってみます。（富山）

ビックリ!! 今月（10月号）の新聞に当病院イケメン看護師が載っていた。仕事に野球にがんばっている彼を応援しなくっちゃー（富山）

仕事の合間などちよつとした空き時間ができた時にサラッと読めるのでいつも楽しく読んでいます。クイズなども

つと増えたらなお楽しいです。（北海道）

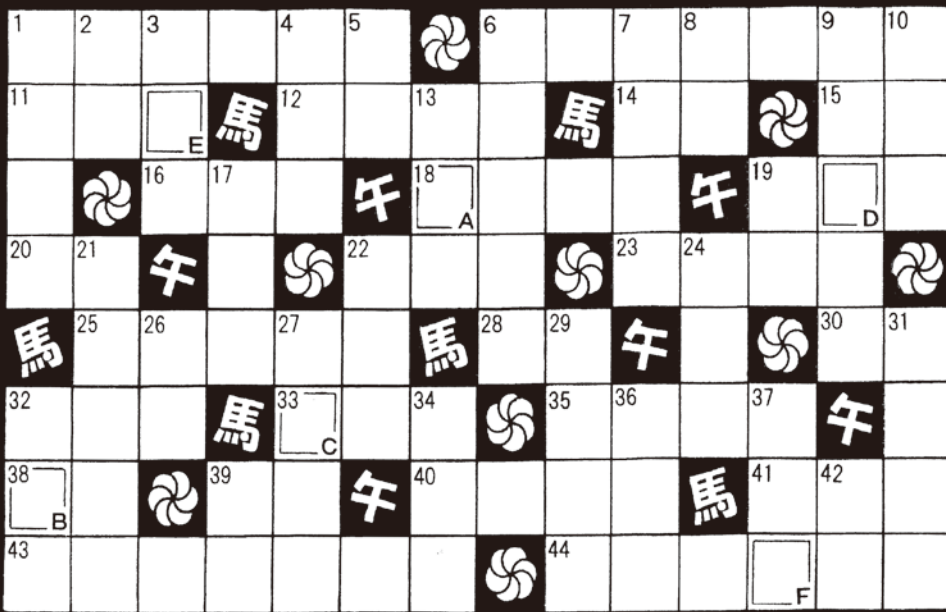
秋田は朝・夕毎日寒!! 雪の予報も少しづつ出てきました。イヤな雪との闘いはもうすぐです。（秋田）

次から次へ日本列島に台風が押し寄せ全国各地で被害が出ています。ニュースを見るたびに自然災害の恐ろしさ自然の中で生かさせてもらっているありがたみを感じさせられます。日々の幸せに感謝したいと思います（長野）



ウマ年 クロスワード

【問題】二重枠の文字をA～Fの順に並べてできる言葉は、なに？ 【出題●モロズミ勝】



答 A B C D E F

ヨコのカギ

- 1 幼い時からの友達です
- 6 中国の故事「人間万事……」
- 11 トカゲに似たほうちう類
- 12 身に備わる威厳。王者の……
- 14 実はムササビも仲間です
- 15 クジャクの……は羽がきれいな
- 16 チャンス。……を逃す
- 18 大切にしてお金
- 19 ヒゴイではなく普通の黒いコイ
- 20 小説のストーリー。あら……
- 22 元旦の朝の餅料理
- 23 メダカのエサになります
- 25 ゴキブリやダニなど
- 28 良薬は……に苦し
- 30 別名をウサギウマと言います
- 32 不足をおぎなって助けること
- 33 コメディは……のことです
- 35 火事場などに集まる馬です
- 38 つらい気持ち。……を晴らす
- 39 TVや洗濯機は電機……です
- 40 年月。……矢の如
- 41 有名ですね、……流星群
- 43 1年の計は……
- 44 サイコロなどの立方体

タテのカギ

- 1 絶好の機会。反対はピンチ
- 2 節足動物です。毒を出す種類も
- 3 馬のような精力的な力
- 4 英語ではアーバン
- 5 羅生……。青春の……
- 6 馬の肉といえば
- 7 新聞のチラシのことをいいます
- 8 相方はキネ
- 9 ……あれば水心
- 10 手術の時に痛みをなくします
- 13 道端のことです。……に迷う
- 17 日本……から正月風景を中継
- 19 スーパー、アンパンと言え
- 21 自分で自分をほめることです
- 22 ゾウの牙
- 24 ……の女神。言論の……
- 26 愛媛県の昔の国名
- 27 国境の長いトンネルの先は？
- 29 黒みがかった赤黄色
- 31 うれしい時は手を挙げて
- 32 日本映画のことです
- 34 与作の職業は
- 36 米山……。相撲……
- 37 競争用自動車をこうも言う
- 39 元素記号は「Au」です
- 42 ……先三寸。……切り雀



通常号の2倍!! 読者の皆様に感謝の「倍返し」当選者20名様に図書カードを差し上げます。クロスワードパズルの答えと本紙の感想などを添えて下記まで先へお送りください。（10月号の答え：キノコメシ）

再び「戦争する国」にしないために



長厚労文化祭典で

「志願兵」(若月俊一作)を上演



佐久総合病院劇団部は、昭和20年11月に結成され、宮澤賢治の教えであった文化活動による「農村劇」での啓発を出張診療に組み合わせて行つたのが演劇活動の始まりでした。

13年12月の長厚労文化祭典では、昨今のきなくさい動きに戦争劇「志願兵」を上演、別な日には一般公開もされました。劇の内容はと言うと…山田二等兵(右)は同郷の野沢二等兵と船で中国大陸へ向かいます(①)。山田の出兵の心残りは田舎に残してきた身重の妻。「生きて必ず帰らなければ」と思いますが、軍隊は厳しく陰惨なところです。そんな中でも飯島等兵は、リベラ

ルな考えを持つ兵でした。何かにつけて動作の遅い山田は荒木上等兵からいつも殴られます(②)。常に軍人「五ヶ條」が唱和され(③)、少しでもたるんでいると拳骨が飛び(④)、罰として「鷲の谷渡り」が繰り返されます(⑤)。ある時、演習中に体調が悪くて遅れた山田を、荒木は銃でなぐろうとします。飯島はやり過ぎだと止めようとします(⑥)が、荒木は構わず山田を殴り、ついには天皇陛下の大事な銃を折ってしまい(⑦)、戸惑ってしまいます。演習の後、部隊に実戦への「志願兵」を出すように指令が下ります。悩んだ山田はつい「志願」してしまいます(⑧)。装備を

付けるのを手伝う野沢と山田は思わず号泣し(⑨)、そんなことを露ほども知らない山田の母と妻は、お腹の子が元気で産まれてくるのを楽しみにしていました(⑩)。部隊の他の隊員らは厭戦感を漂わせながら居酒屋で飲んだくれですが、山田が戦死したと聞いて、「馬鹿なやつだ」と踊り嘲り笑います(⑪)。そして国に残された母と妻には戦死の報が届いたのでした(⑫)。上演の中で繰り返されるのは、上等兵からのイジメ(暴力)です。演出の花澤さんは、今回原作にはない女性も登場させ、戦場だけではなく戦争の悲惨さを伝えることにしたそうです。



こんなに危険!!

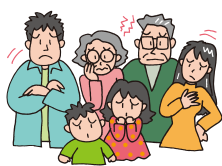
特定秘密保護法

選挙公約にも所信表明演説にもなかった「特定秘密保護法」は、12月6日、自公政権の衆院に引き続き参院「採決強行」で成立しました。国民の過半数が反対し、7/8割の国民が慎重審議を求めているながら、

成立した途端に、安倍首相は「もつと丁寧な説明をすべきだった」「理解を求めていく」などと発言。「強行ありき」の暴走姿勢に国民の怒りは続いています。しかも成立直後から「共謀罪」や「武器輸出三原則緩和」の動きも出る有様です。

こんな法律は決して施行させてはなりませんし、発動させない幅広い運動が必要ですよ。

「密告」促す
秘密保護法第25条(前略)共謀したものが自首したときは、その刑を軽減し、又は免除する」とあります。「密告」をすすめる法律です。



―特定秘密保護法要旨―

【特定秘密の指定】防衛・外交、スパイ行為、テロ防止に関わる情報。閣僚ら行政機関の長が指定する。

【指定の有効期間】5年以内で定め、5年以内で延長30年越える場合は内閣承認。60年を越えて指定できる情報も。

【特定秘密の提供】閣僚らは、外国政府や国際機関に特定秘密を提供できる。

【取扱者の適性評価】特定

秘密を取り扱う公務員や契約による民間事業者らの適性評価を行う。テロ活動との関係、犯罪歴、精神疾患、飲酒の程度など。首相・閣僚は適性調査なし。

【罰則】取扱者が情報を漏らした場合、最高懲役10年。外国の利益や自己の不正利益のために特定秘密を取得した者も10年以下の懲役。教唆、扇動は5年以下の懲役。